

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書の訂正報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第4項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成22年11月10日
【四半期会計期間】	第69期第1四半期（自平成22年4月1日至平成22年6月30日）
【会社名】	マミヤ・オーピー株式会社
【英訳名】	MAMIYA-OP CO., LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 矢崎 登
【本店の所在の場所】	東京都品川区西五反田二丁目11番17号
【電話番号】	03(5437)2311
【事務連絡者氏名】	取締役副社長（管理本部長） 島田 和長
【最寄りの連絡場所】	東京都品川区西五反田二丁目11番17号
【電話番号】	03(5437)2311
【事務連絡者氏名】	取締役副社長（管理本部長） 島田 和長
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

1【四半期報告書の訂正報告書の提出理由】

平成22年8月6日付をもって提出いたしました第69期第1四半期（自平成22年4月1日至平成22年6月30日）四半期報告書の記載事項のうち、売上高及び売上原価並びにスポーツ事業セグメントの売上高等の数値に、連結子会社との内部取引に係る連結相殺消去の誤りにより訂正が必要となりましたので、これを訂正するために四半期報告書の訂正報告書を提出いたします。なお、前述の理由による訂正であるため、利益（営業利益、経常利益、四半期純利益）の数値に訂正はございません。

また、四半期連結財務諸表の記載内容にかかる訂正箇所につきましては、XBRLの修正を行いましたので、あわせて修正後のXBRL形式のデータ式（表示情報ファイル含む）を関連書類として提出いたします。

2【訂正事項】

第一部 企業情報

第1 企業の概況

1 主要な経営指標等の推移

第2 事業の状況

1 生産、受注及び販売の状況

(1) 生産実績

(4) 販売実績

4 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析

(1) 業績の状況

第5 経理の状況

1 四半期連結財務諸表

(2) 四半期連結損益計算書

注記事項

（セグメント情報等）

3【訂正箇所】

訂正箇所は__線で示しております。

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

(訂正前)

回次	第68期 第1四半期 連結累計 (会計)期間	第69期 第1四半期 連結累計 (会計)期間	第68期
会計期間	自平成21年 4月1日 至平成21年 6月30日	自平成22年 4月1日 至平成22年 6月30日	自平成21年 4月1日 至平成22年 3月31日
売上高(千円)	3,927,745	4,719,248	15,190,484
経常利益(千円)	397,952	544,801	1,295,935
四半期(当期)純利益(千円)	290,397	501,474	1,107,891
純資産額(千円)	6,126,500	7,513,730	6,911,504
総資産額(千円)	12,227,385	13,886,865	13,907,069
1株当たり純資産額(円)	65.68	80.56	74.10
1株当たり四半期(当期)純利益 金額(円)	3.11	5.38	11.88
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額(円)	-	-	-
自己資本比率(%)	50.10	54.11	49.70
営業活動による キャッシュ・フロー(千円)	909,550	39,854	2,324,631
投資活動による キャッシュ・フロー(千円)	149,915	501,490	305,661
財務活動による キャッシュ・フロー(千円)	84,805	57,751	618,009
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高(千円)	4,098,881	5,353,364	5,870,261
従業員数(人)	766	819	853

(注) 1. 売上高には消費税等(消費税及び地方消費税をいう。以下同じ)は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額は、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

(訂正後)

回次	第68期 第1四半期 連結累計 (会計)期間	第69期 第1四半期 連結累計 (会計)期間	第68期
会計期間	自平成21年 4月1日 至平成21年 6月30日	自平成22年 4月1日 至平成22年 6月30日	自平成21年 4月1日 至平成22年 3月31日
売上高(千円)	3,927,745	4,491,451	15,190,484
経常利益(千円)	397,952	544,801	1,295,935
四半期(当期)純利益(千円)	290,397	501,474	1,107,891
純資産額(千円)	6,126,500	7,513,730	6,911,504
総資産額(千円)	12,227,385	13,886,865	13,907,069
1株当たり純資産額(円)	65.68	80.56	74.10
1株当たり四半期(当期)純利益 金額(円)	3.11	5.38	11.88
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額(円)	-	-	-
自己資本比率(%)	50.10	54.11	49.70
営業活動による キャッシュ・フロー(千円)	909,550	39,854	2,324,631
投資活動による キャッシュ・フロー(千円)	149,915	501,490	305,661
財務活動による キャッシュ・フロー(千円)	84,805	57,751	618,009
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高(千円)	4,098,881	5,353,364	5,870,261
従業員数(人)	766	819	853

(注) 1. 売上高には消費税等(消費税及び地方消費税をいう。以下同じ)は含まれておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額は、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

第2【事業の状況】

1【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

(訂正前)

当第1四半期連結会計期間における生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりです。

セグメントの名称	金額(千円)	前年同四半期比(%)
電子機器事業	2,493,104	-
スポーツ事業	832,232	-
合計	3,325,336	-

(注) 1. 金額は、販売価格によっております。

2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(訂正後)

当第1四半期連結会計期間における生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりです。

セグメントの名称	金額(千円)	前年同四半期比(%)
電子機器事業	2,493,104	-
スポーツ事業	590,232	-
合計	3,083,336	-

(注) 1. 金額は、販売価格によっております。

2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(4) 販売実績

(訂正前)

当第1四半期連結会計期間における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりです。

セグメントの名称	金額(千円)	前年同四半期比(%)
電子機器事業	3,789,201	-
スポーツ事業	930,047	-
合計	4,719,248	-

(注) 1. 前第1四半期連結会計期間及び当第1四半期連結会計期間における主な相手先別の販売実績及び総販売実績に対する割合は次の通りです。

相手先	前第1四半期連結会計期間		当第1四半期連結会計期間	
	金額(千円)	総販売実績に対する割合(%)	金額(千円)	総販売実績に対する割合(%)
コスモ・イーシー(株)	894,135	22.8	1,179,487	25.0
日本ゲームカード(株)	1,193,522	30.4	2,054,933	43.5
インターナショナルカードシステム(株)	1,181,512	30.1		

2. 上表の金額には、消費税等は含まれておりません。

(訂正後)

当第1四半期連結会計期間における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりです。

セグメントの名称	金額(千円)	前年同四半期比(%)
電子機器事業	3,789,201	-
スポーツ事業	702,250	-
合計	4,491,451	-

(注) 1. 前第1四半期連結会計期間及び当第1四半期連結会計期間における主な相手先別の販売実績及び総販売実績に対する割合は次の通りです。

相手先	前第1四半期連結会計期間		当第1四半期連結会計期間	
	金額(千円)	総販売実績に対する割合(%)	金額(千円)	総販売実績に対する割合(%)
コスモ・イーシー(株)	894,135	22.8	1,179,487	26.3
日本ゲームカード(株)	1,193,522	30.4	2,054,933	45.8
インターナショナルカードシステム(株)	1,181,512	30.1		

2. 上表の金額には、消費税等は含まれておりません。

4【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

(訂正前)

当第1四半期連結会計期間におけるわが国経済は、高水準の失業率が続くなど厳しい状況にありながらも、景気が自律性は弱いものの着実な持ち直し傾向を示す中で幕を開け、緩やかなデフレ状況の下、景気や雇用の下振れ懸念をはらみつつも、輸出の増加と生産の持ち直し、企業収益の改善と設備投資の下げ止まり、個人消費の回復傾向と雇用情勢における改善の兆しといった、先行きへの一定の期待が徐々に高まる中で推移しました。

このような経済環境の下、当社グループは、主力であるパチンコ周辺機器事業においては、一連のM&Aによって拡大した事業領域を最大限に活用し、自社ブランド紙幣識別機の新製品開発と販路拡大、子会社であるエフ・エス株式会社を自社ブランド製品である小型自動券売機の販売総代理店とし、その全国に展開する営業所ネットワークを券売機顧客への販売及び保守サービス充実の拠点として活用する体制を確立する等、健全かつ強固な経営基盤確立のための様々な施策と着実な先行投資を重ねております。また、ゴルフ用品事業につきましても、先行投入した日本市場において大好評をいただいております「ATTAS」シリーズのグローバル展開等、「USTMamiya」ブランドの浸透と確立を着実に推進しております。

この結果、当社グループの当第1四半期連結会計期間の売上高は47億19百万円(前年同期比20.2%増)、営業利益は5億54百万円(前年同期比74.9%増)、経常利益は5億44百万円(前年同期比36.9%増)、四半期純利益は5億1百万円(前年同期比72.7%増)となりました。

セグメントの業績は、次のとおりです。

(電子機器事業セグメント)

電子機器事業セグメントは、OEM供給しているカードユニットの新製品が順調に売上を伸ばしており、また、パチスロ機が一時の低迷を脱して増設傾向にあることから、とりわけメダル貸機の売上が増加しており、売上・利益共に、前年同期を上回るペースで推移しました。

この結果、電子機器事業セグメントの売上高は37億89百万円、営業利益は5億4百万円となりました。

(スポーツ事業セグメント)

スポーツ事業セグメントは、主要マーケットである米国をはじめとする内外の市場における消費低迷からの回復が遅れる中、シャフトの商品ライフサイクル短縮に即した開発・設計スピードアップの必要性増大、中国の下請メーカーによる開発・設計業務への進出等、競争環境の厳しさは激化する一方です。

このような環境の下、「ATTAS」のカスタム採用分を含めた販売の減速、工房向けプロトタイプの発売遅延などへの対策、そして、「USTMamiya」グローバルマーケティング体制の確立途上における内外拠点間をまたがる意思決定のスピードアップ、グリップ事業への進出によるシャフト販売とのシナジー効果の追求、トライバイヤス技術の確立、ツアー使用率アップによるブランドイメージ向上などの諸課題への取り組みを進める中で、クラブメーカーの在庫調整が一段落したことによる売上増大などが寄与し、世界同時不況の深刻な影響からは徐々に脱却しつつあります。この結果、スポーツ事業セグメントの売上高は9億30百万円、営業利益49百万円となりました。

(訂正後)

当第1四半期連結会計期間におけるわが国経済は、高水準の失業率が続くなど厳しい状況にありながらも、景気が自律性は弱いものの着実な持ち直し傾向を示す中で幕を開け、緩やかなデフレ状況の下、景気や雇用の下振れ懸念をはらみつつも、輸出の増加と生産の持ち直し、企業収益の改善と設備投資の下げ止まり、個人消費の回復傾向と雇用情勢における改善の兆しといった、先行きへの一定の期待が徐々に高まる中で推移しました。

このような経済環境の下、当社グループは、主力であるパチンコ周辺機器事業においては、一連のM&Aによって拡大した事業領域を最大限に活用し、自社ブランド紙幣識別機の新製品開発と販路拡大、子会社であるエフ・エス株式会社を自社ブランド製品である小型自動券売機の販売総代理店とし、その全国に展開する営業所ネットワークを券売機顧客への販売及び保守サービス充実の拠点として活用する体制を確立する等、健全かつ強固な経営基盤確立のための様々な施策と着実な先行投資を重ねております。また、ゴルフ用品事業につきましても、先行投入した日本市場において大好評をいただいております「ATTAS」シリーズのグローバル展開等、「USTMamiya」ブランドの浸透と確立を着実に推進しております。

この結果、当社グループの当第1四半期連結会計期間の売上高は44億91百万円（前年同期比14.4%増）、営業利益は5億54百万円（前年同期比74.9%増）、経常利益は5億44百万円（前年同期比36.9%増）、四半期純利益は5億1百万円（前年同期比72.7%増）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりです。

(電子機器事業セグメント)

電子機器事業セグメントは、OEM供給しているカードユニットの新製品が順調に売上を伸ばしており、また、パチスロ機が一時の低迷を脱して増設傾向にあることから、とりわけメダル貸機の売上が増加しており、売上・利益共に、前年同期を上回るペースで推移しました。

この結果、電子機器事業セグメントの売上高は37億89百万円、営業利益は5億4百万円となりました。

(スポーツ事業セグメント)

スポーツ事業セグメントは、主要マーケットである米国をはじめとする内外の市場における消費低迷からの回復が遅れる中、シャフトの商品ライフサイクル短縮に即した開発・設計スピードアップの必要性増大、中国の下請メーカーによる開発・設計業務への進出等、競争環境の厳しさは激化する一方です。

このような環境の下、「ATTAS」のカスタム採用分を含めた販売の減速、工房向けプロトタイプの発売遅延などへの対策、そして、「USTMamiya」グローバルマーケティング体制の確立途上における内外拠点間をまたがる意思決定のスピードアップ、グリップ事業への進出によるシャフト販売とのシナジー効果の追求、トライバイヤス技術の確立、ツアー使用率アップによるブランドイメージ向上などの諸課題への取り組みを進める中で、クラブメーカーの在庫調整が一段落したことによる売上増大などが寄与し、世界同時不況の深刻な影響からは徐々に脱却しつつあります。

この結果、スポーツ事業セグメントの売上高は7億2百万円、営業利益49百万円となりました。

第5【経理の状況】

1【四半期連結財務諸表】

(2)【四半期連結損益計算書】

【第1四半期連結累計期間】

(訂正前)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)
売上高	3,927,745	4,719,248
売上原価	2,732,530	3,389,520
売上総利益	1,195,215	1,329,728
販売費及び一般管理費	878,195	775,369
営業利益	317,019	554,358
営業外収益		
受取利息	1,405	334
受取配当金	18,773	19,055
為替差益	65,410	-
固定資産賃貸料	10,298	10,298
その他	4,857	3,406
営業外収益合計	100,744	33,094
営業外費用		
支払利息	8,308	11,736
固定資産賃貸費用	9,468	10,411
為替差損	-	17,675
その他	2,034	2,827
営業外費用合計	19,811	42,651
経常利益	397,952	544,801
特別利益		
貸倒引当金戻入額	2,236	2,163
役員退職慰労引当金戻入額	9,236	-
特別利益合計	11,472	2,163
特別損失		
固定資産除売却損	185	68
早期割増退職金	97,870	-
特別損失合計	98,056	68
税金等調整前四半期純利益	311,368	546,895
法人税、住民税及び事業税	20,251	40,615
法人税等調整額	719	4,806
法人税等合計	20,970	45,421
少数株主損益調整前四半期純利益	-	501,474
四半期純利益	290,397	501,474

(訂正後)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成21年4月1日 至平成21年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年6月30日)
売上高	3,927,745	4,491,451
売上原価	2,732,530	3,161,723
売上総利益	1,195,215	1,329,728
販売費及び一般管理費	878,195	775,369
営業利益	317,019	554,358
営業外収益		
受取利息	1,405	334
受取配当金	18,773	19,055
為替差益	65,410	-
固定資産賃貸料	10,298	10,298
その他	4,857	3,406
営業外収益合計	100,744	33,094
営業外費用		
支払利息	8,308	11,736
固定資産賃貸費用	9,468	10,411
為替差損	-	17,675
その他	2,034	2,827
営業外費用合計	19,811	42,651
経常利益	397,952	544,801
特別利益		
貸倒引当金戻入額	2,236	2,163
役員退職慰労引当金戻入額	9,236	-
特別利益合計	11,472	2,163
特別損失		
固定資産除売却損	185	68
早期割増退職金	97,870	-
特別損失合計	98,056	68
税金等調整前四半期純利益	311,368	546,895
法人税、住民税及び事業税	20,251	40,615
法人税等調整額	719	4,806
法人税等合計	20,970	45,421
少数株主損益調整前四半期純利益	-	501,474
四半期純利益	290,397	501,474

【注記事項】

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

2. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(訂正前)

当第1四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年6月30日)

(単位:千円)

	報告セグメント			合計
	電子機器事業	スポーツ事業	計	
売上高				
外部顧客への売上高	3,789,201	<u>930,047</u>	<u>4,719,248</u>	<u>4,719,248</u>
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-
計	3,789,201	<u>930,047</u>	<u>4,719,248</u>	<u>4,719,248</u>
セグメント利益	504,884	49,474	554,358	554,358

(注) 報告セグメントの利益の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

(訂正後)

当第1四半期連結累計期間(自平成22年4月1日至平成22年6月30日)

(単位:千円)

	報告セグメント			合計
	電子機器事業	スポーツ事業	計	
売上高				
外部顧客への売上高	3,789,201	<u>702,250</u>	<u>4,491,451</u>	<u>4,491,451</u>
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-
計	3,789,201	<u>702,250</u>	<u>4,491,451</u>	<u>4,491,451</u>
セグメント利益	504,884	49,474	554,358	554,358

(注) 報告セグメントの利益の合計額は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。